

一般演題 2-2 化膿性脊椎炎に対する高気圧酸素治療の 有効性の検討

吉松弘喜¹⁾ 瀧 健治²⁾ 山田 圭¹⁾ 佐藤公昭¹⁾
吉田健治³⁾ 山下 寿²⁾ 中島正一⁴⁾ 井手洋平¹⁾
脇岡 徹¹⁾ 永田見生¹⁾

- | | |
|----|----------------------|
| 1) | 久留米大学医学部 整形外科 |
| 2) | 雪ノ聖母会聖マリア病院 救命救急センター |
| 3) | 雪ノ聖母会聖マリア病院 整形外科 |
| 4) | 雪ノ聖母会聖マリア病院 臨床工芸室 |

【背景】化膿性脊椎炎に対する高気圧酸素治療(HBO)の過去の報告^{1,2)}では、様々な病態・治療法の混在や評価方法の難しさなどより、その有効性に関する判断は難しく、未だ明確な答えはでていない。

【目的】本研究の目的は化膿性脊椎炎に対するHBOの有効性を明らかにすることである。

【対象と方法】診断時に重症敗血症・MRSA感染及び麻痺症状を認めなかった化膿性脊椎炎77例を対象とした。HBO群30例、非HBO群47例の2群において、再発、麻痺発症、最終治療法の因子を評価した。また、早期診断例31例と診断遅延例46例についても同様の検討を行った。HBOは1日1回100%酸素2.0絶対気圧加圧下で60分間・20日間行った。CRP陰性化しない症例に対し、更に20回追加した。平均HBO回数は30回であった。

【結果】再発はHBO群3例(10%)、非HBO群9例(19%)であった。特に診断遅延例では非HBO群が多かった。麻痺発症はHBO群では認めなかった。麻痺を発症した2例は診断遅延例の非HBO群であった。最終治療法はHBO群では保存療法22例(73%)、手術8例(27%)であったが、非HBO群では手術が23例(49%)と多かった。特に、診断遅延例ではHBO群では保存療法13例、手術4例(24%)であったが、非HBO群では手術が18例(62%)と有意に多かった($p < 0.05$)。

【考察】近年増加傾向にある化膿性脊椎炎は、しばしば難治性に至ることより、治療法³⁾のさらなる検討が必要となっている。化膿性脊椎炎のHBO併用は治療効果が高い印象にあるとされているものの、過去の報告からはその有効性に関する判断は難しい。今回の調査では、一定の方針に基づいて治療を行った症例に限定し、HBOの有効性を評価した。特に診断遅延例においてHBO群と非HBO群に差を認め、HBO群では保存療法のみで改善した症例が有意に多かった。この結果は治療に難渋することの多い診断遅延例に対して、HBO併用が難治化させない有効な治療法となる可能性が示唆された。今後、多彩な病状を示す化膿性脊椎炎のHBO併用の有効性を判断するには、病態別などのさらなる評価検討が必要と思われた。

【結語】化膿性脊椎炎に対する高気圧酸素治療は有効である可能性が示唆された。

【参考文献】

- 1) Ravicovitch MA, et al.: Spinal epidural abscess. Surgical and parasurgical management. Eur. Neurol.21: 347-357,1982
- 2) Kutlay M, et al.: Antibiotic and hyperbaric oxygen therapy in the management of postoperative discitis. Undersea Hyperb Med 35 : 427-440,2008
- 3) Nagata K, et al.: Percutaneous suction aspiration and drainage for pyogenic spondylitis. Spine 23 : 1600-1606,1998